

2022年度 組織担当者会議 報告

1/3

日 時:2022 年 9 月 8 日(木)19 時～21 時

会場:大阪労山連盟事務所 12 名、リモート参加者 14 名

組織部 浜田

はじめに組織部より会議の趣旨説明「昨年度、大阪労山に所属していた会が運営委員の高齢化による退会等により解散した。今年度も、山の会カランクルンが7月末に脱退しましたし、解散予定を表明している会もあります。みなさんの会ではコロナの影響、高齢化…等による会員数の減少はありませんか。今回の「組織担当者会議」では活発に活動している2つの会の報告、兵庫労山からの報告、そして参加した会から悩みや課題を出し合い会員拡大に活かしてもらえればと」

1. 高齢者のための取り組み等を活発に取り組んでいる会の報告 概要

★きたろうハイキングクラブ

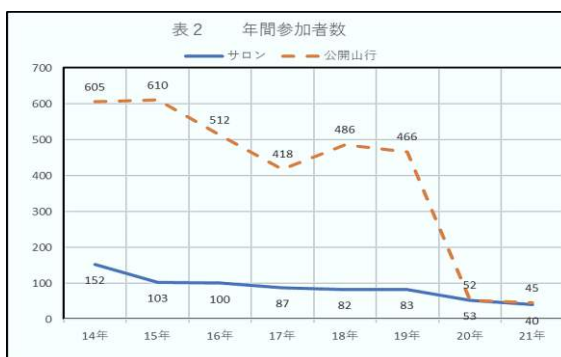
会員数 92 名で平均年齢が 68.4 歳。男性は 70 歳を超えている。高齢化による退会やコロナ禍で山行が出来ないための退会による、会員減少はこの 2 年は顕著な大問題です。

会の活動は山行主体の活動グループ(公開山行、土曜山行、ターブルート山行、ウィークデイハイクを個人の体力差を考慮して計画、入会者には教育部が基礎教育とリーダー講習を実施)

他に、高齢化を考えた活動として、自然文化に関する活動グループ(自然文化的探索や美術館鑑賞等で会員交流するサロン活動、ベビーカーの子供でも参加できるファミリー、自然保護、絵画教室など)で山の仲間と新たな世界にチャレンジし会員間の交流を育んでいる。

最近 8 年間の会員数と平均年齢の表(紙面の都合で割愛)から、昨年はコロナ禍で山行活動ができないため若年齢層の退会が偏ったため、平均年齢が急激に増えている。

公開山行の参加者数とサロンの参加者数の推移を比較した右の表 2 から。会員の高齢化や会員数減少下の中で、公開山行の参加者数が同期間を通じて減少傾向なのですが、サロンは、公開山行の参加者の平均年齢より高いのにも関わらず減少傾向は緩やか。尚、サロンのメンバーは永い活動で友情と信頼関係により運営にも大きく寄与している。



★八尾山の会

来年で創立 60 年を。現在 25 名で活動。平均年齢は 60 代(40～81 才)隔月で運営委員会とミーティングを開催、第 2・4(日)山行例会、第 4(水)低い山シリーズ、第 3(土)障がい者ウォーク、年 1 回障がい者登山、有志山行や連盟行事(平和行進、ダイトレ等に参加している。機関誌(たまてばこ)は毎月発行し労山ニュースと同時に届けている。PC を持っている方にはメールで配信。さらに年に数回画像たまてばこを発行。HP は毎月更新している。

★仲間づくりについて、昨年は 4 名の入会があった。入会動機は HP を見た、山行中会員

に声をかけられたなど様々です。最近も HP を見たと問い合わせが何件もあり、お試し山

2/3

行に参加して頂いている。また、会の名刺を作成し会の宣伝をしている。八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の登録団体で、会の会議やミーティングはセンターを借りて実施して

いる。その関係から、FM チャオからラジオインタビューを受けた。入会した会員は殆んど

辞

めないで残っている。新しい会員は連盟の女性のための登山教室、夏山セミナーなどで積極的に学習している。

2. 兵庫労山の組織拡大についての取り組み 組織委員長

昨年、1981 年創立の神戸ハイキングクラブが高齢化の理由で解散した。兵庫県としては会員総数が 1900 人を割り込む危機的事態となっています。明昭山の会も 100 人減。コロナの影響は各会に深刻なダメージとなっている。その中で、西宮労山は 50 人もの新入会員増を成し遂げた。それは会の雰囲気盛り上げた結果だと聞いている。

コロナ禍の活動で、県連担当常任が実施した各会との緊密な繋がり強化の取組みやアンケート調査から、各会の共通課題として、会員拡大、高齢化問題、リーダー不足は深刻な問題となっている。これまでの県連盟としては、会員の拡大を各会に一任し、県連盟としては既存会員の技術力アップのみを中心目標に、連盟専門部が教育カリキュラムを作り実施してきた。しかしながら会員数の伸び悩み、会員の高齢化によって、せつかくのレベルアップの講習でも、なかなか参加者が集まらないというケースが増えている。

県連盟として今後は、組織委員会が中心となり、各専門部も一致協力して、若い新入会員の確保と会員数の拡大に積極的に取り組んで行くこととなった。

そして、兵庫県連盟が注目すべき最大のメリットは、毎年六甲全山縦走に参加してくれる多くの一般参加者の存在です。この山に少しは関心のある人達を仲間に取り込むために、もっと兵庫県連盟の活動をアピールし関心を持ってもらわなくては勿体ないと考えます。そのため県連盟に「広報戦略部門」を新たに設置して、ネット情報の分析や you tube などから若者の考え方、情報の発信を行う事が重要です。そのために組織委員会に新たな人材を加えました。

新入会員候補には一連のコースを設定して、それが進むにつれていつの間にか仲間になって行くという過程が大事です。ですからこれからの作戦としては、今登山技術をいきなり高めるのではなくて、まず広めましょう。関心を持ってもらいましょう。その後で技術を高めればよいと考えます。上から目線で教育教育と唱えるのではなく、一緒に山を楽しみながらお互いの技量を磨いてゆくというスタイルが大事です。

さらには取り込む側の体制づくりです。これには今後各会がもっと考えてゆく必要はありますが、とりあえずは自分の会の魅力を考えてもらいましょう。自分の愛する会をどのように一般の人にアピールできるかは今後重要な課題です。会の魅力をさらに醸造しアップする方法も大事です。これらは組織委員会で実施する企画、アンケートや他会との交流会議、交流ハイクなどによって、各会どうしの横の繋がりをさらに深めて、それぞれの会で考えて取り組む努力を重ねてもらう必要があります。組織委員会としてはそれらのまとめ

役として行動します。さらにはポストコロナの来期に向けての新たな目標として、県連盟全体の交流集会を実施し、各登山嗜好別の交流会議を開催したいと考えています。

3/3

★兵庫労山 西宮労山の会員拡大について

創立 60 周年、79 名の会員数ですが、1 年間年に 50 名入会した。公開ハイク、京都トレイル、メールマガジンを発行、新人で ML の作成、体験ハイク、一般向けへのチラシ作成、HP 以外に SNS (Facebook、ライン) の活用、昼のティータイムは時間をかけて和やかに交流の場とする等の工夫した取り組みを実施した。また、西宮ラジオ局から出演依頼もあった。

3. リモートに参加の会から現状報告

・K 会: リーダーが 80 歳に、コロナ感染予防で公開山行を中止していたが、10 月から実施。

連盟の組織数が来年は 1000 名をきるのでは。各会の取り組み状況の確認を。

・T 会: HP の充実、入会案内の改定。全国連盟の労山リーフレットを入会パンフレットに利用。会員の定着をはかるため楽しい山行内容に工夫。(会食会の補助)、清掃ハイキング後にスイカ等の果物を会から提供。山行内容目的の充実。10 月にバスハイクを計画

・S 会: 2 月から山行が増えている。HP のリメイク。数名入会。

・TE 会: コロナの影響で 3 名退会。有志山行をしている。

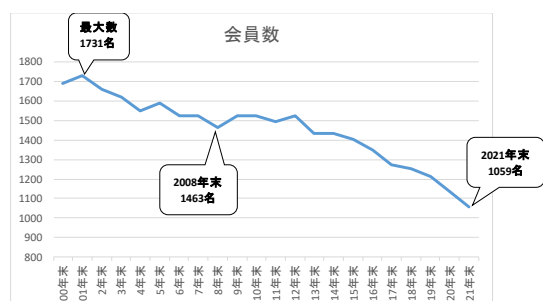
・K 会: 今年より例会山行を実施。HP から 2 名入会した。

・O 会: 数名入会した。

4. 大阪労山の組織数の推移と今後の会員拡大の取り組みについて 浜田

大阪労山の創立時(1967 年)は約 600 名の会員数であった。その後、右肩上がりで会員数は増えていきます。セミナー等からの加入により 2001 年に 1731 名(最多会員数)となった。その後、会員数が減少傾向になった。会員数の増加を図るため 2009 年に「大阪労山アタックプラン」を取り組み初年度に 81 名の会員増を達成することが出来ましたが、その後徐々に減少傾向になっている。

2021 年末の組織数については、新型コロナの影響で会山行が実施出来なくなったり、一般参加者への公開山行や登山教室が中止になったことにより入会者が減少、会員の高齢化、コロナの影響で山へ行けなくなったことから会員数が減少した。



★今後の会員拡大の取り組みについて

＜連盟＞意識的な組織拡大と意識改革が必要である。労山共通の精神を持ってもらう

取り組みを考える(仲間意識が昔より希薄に): 交流会

＜各会＞

- ・入って見たいと思える HP や SNS などの開設(リニューアル)と更新(月に 1 回以上)を。
- ・入会者へのフォローアップ(会でできない場合、連盟の教育・登山学校・セミナーの利

用)。

- ・一般登山愛好家を対象とした公開登山や登山学校に取り組む。
- ・会員が年齢に関係なく参加できる取り組みを考える。(健康教室、趣味の集まり…等)。
- ・会員が目標(楽しめる)となる計画に取り組む。(京都トレイルの完走、目標の山、ルート)

<活発な会・兵庫県連の報告等から会の会員拡大に活かせればと思います>